

庁舎整備の全体的な考え方

- ・ 市役所は市政の中心拠点であり、地域における文化の表現、象徴としての施設です。親しみやすく、安全で、便利であることは勿論、市民に長く親しまれる施設である必要があります。
- ・ これからの市役所には、多様な行政需要に対し、効率的かつ効果的に対処できる行政機能面の充実とともに、市民が市政に参加する場やコミュニティの中心拠点としての役割が求められています。

現在の府中市の課題：耐震性に関する不安、老朽化、狭隘化…

	市民サービス面	行政効率面	コスト・維持管理面
現状の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザインへの対応に問題がある。 ・ 市民協働のためのスペースが少ない。 ・ 第2庁舎などが分散していて不便。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭隘化により、執務効率が落ちている。 ・ IT化への対応が限界。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化により、維持管理費が増大している。 ・ 耐震性に問題がある。

課題解消するには…

市政とコミュニティの中心拠点として、誰にでも親しまれる、高性能を有した長寿命建築を目指した庁舎を整備する。

府中市のマスタープラン

将来の都市像

目指すべき都市像「心ふれあう 緑ゆたかな 住みよいまち」

- ◇ 安心していきいきと暮らせるまちづくり
- ◇ 安全で快適に住めるまちづくり(生活・環境)
- ◇ 人と文化をはぐくむまちづくり
- ◇ にぎわいと魅力のあるまちづくり

新たな庁舎として整備する意義：庁舎のあり方

○来たい感(期待感)をつくる：

- ・ 集う、意見を出す、議論をする、立案する、決定する、実行する、検証する、発信するなど市民を惹きつけ、市政への参加意欲を醸成する庁舎づくり⇒新しい庁舎へ行きたい、来たい感(期待感)をつくることをまず目標とします。

○行財政を見直すチャンス：

- ・ IT化により事務効率を向上。また、会議室などの一体的な整備により、機能的で快適な執務空間を確保。

○地方分権時代の行政の推進：

- ・ 庁舎は、行政の事務オフィスとしての機能だけでなく、多彩な市民活動や市民交流の場を提供することにより、市民の庁舎への愛着や誇りを醸成することが可能。

将来像の観点からの整理が基本構想では、最も重要。

府中市庁舎のあり方

(※今後、検討が進められる基本計画や設計では、このあり方を元に具体的な整備手法やデザインを決めます。)

⇒ 社会性・環境保全性・安全性・機能性・経済性など府中市の特性を加味した評価視点を基本構想で定める必要がある。

協議会協議のここまでのまとめ

■はじめに

本資料は、基本構想に必要なそれぞれの項目に対して、市民アンケートおよびこれまでの本検討協議会でのご意見、府中市の現状などを基に、事務局側でまとめ案を記載させて頂いたものになります。

■今後の協議会の目的

今後検討すべき点は赤で囲っております。今後の協議会においては、本資料の基本理念を参考にし、「4. 新庁舎が備えるべき機能および機能」に関しては、これからの市庁舎に必要な機能や規模について、「5. 実現方策」に関しては、新庁舎整備にかかる財源や事業手法について、皆様のご意見を伺いたいと思っております。

皆様のご意見については、事務局側でまとめ、方針を決定させていただきたいと思っております。

■基本構想の構成について

基本構想の内容ならびに主要な検討事項は概ね次のように考えられます。

1. 現庁舎の課題
2. 新庁舎の基本理念
3. 新庁舎の位置
4. 新庁舎が備えるべき機能および規模
5. 実現方策
6. 今後の検討の進め方

■目次ごとのまとめ方について

1. 現庁舎の課題について

1-1 市民アンケートから

- ・「災害対策の拠点として、高いレベルでの大地震や火災などに耐えられる建物となっていない」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答した人が 40%以上いた。また、「わからない」と回答した人を含めると 70%を超えていた。
- ・「第 2 庁舎などが分散していて利用しにくい」という設問に対し、回答にばらつきはあったが、「そう思う」という回答が最も多かった(27%)。
- ・「市庁舎以外の複合施設が併設されていない」という意見も目立った。約半数の方が、「そう思う」または「どちらかというと思う」と回答していた。

1-2 検討協議会委員の意見から

- ・耐震性に問題がある。
- ・通路幅やエレベーター、トイレ等のほか、高低差の大きいスロープなど、ユニバーサルデザインへの対応に問題がある。
- ・増築してるとはいえ、ワンフロアが狭いので使い勝手が悪い。
- ・市民協働を実現するための役所になっていない。

1-3 市政世論調査から

- ・市庁舎の課題について、「第 2 庁舎などが分散していて利用しにくい」(35%)が最も多く、次いで「市民が利用できるロビーや憩いのスペースなどが少ない」(30%)、「駐車場・駐輪場などが十分ではない」(28%)の順であった。

1-4 府中市庁舎の現状

- ・耐震診断結果
⇒平成 21 年度に実施した「耐震診断結果」では、西庁舎(増築部分を除く)と東庁舎(増築部分を除く)の耐震性能が構造耐震指標(Is値)0.6 を下回っていた。
- ・維持管理費の問題
⇒設備機器の老朽化などにより、庁舎の整備事業に係る経費や施設修繕料が増大している。



【まとめ(案)】

市民アンケートや検討協議会の議論から出された意見を分類すると、以下のようになる。

<現庁舎の課題>

- 耐震性に問題があり、防災・災害復興拠点として不十分である
- 分散や狭隘化により、使い勝手が悪い。
- バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応が遅れている。
- 設備の老朽化およびIT化への対応が遅れている。
- 市民協働のための空間が確保出来ていない。

2. 新庁舎の基本的考え方

2-1 市民アンケートから

- ・「理想に思う庁舎像」として、「バリアフリーに配慮し、高齢者、障害者、子どもも利用しやすい庁舎」という回答が最も多く、60%を超えていた。
 - ・「耐震性に優れ、耐用年数が長い堅牢な庁舎」という回答が次に多く、35%を超えていた。
 - ・一方で、「最低限の事務所機能を備えた庁舎」という回答も多かった。
 - ・その他自由回答欄においては、「市税・予算を有効に使ってほしい」、「シンプルな庁舎にしてほしい」、「利用しやすくしてほしい」、「耐震性を確保してほしい」、「生活弱者に配慮してほしい」などの意見が多かった。
- また、「新庁舎は必要ない」という意見もあった。

2-2 検討協議会委員の意見から

- ・バリアフリーについて配慮した庁舎にすべきである。
- ・市民協働の拠点となるような役所にすべきである。
- ・環境に配慮した整備方法を検討すべきである。
- ・ライフサイクルコストについて充分検討すべきである。
- ・業務の可変性に従い、庁舎の機能にも可変性を持たせるべきである。

2-3 市政世論調査から

- ・「理想に思う庁舎像」として、「バリアフリーに配慮し、高齢者、障害者、子どもも利用しやすい庁舎」(30%)という回答が最も多く、次いで「最低限の事務所機能を備えた庁舎」(16%)、「市民との協働スペースが十分に確保された庁舎」(9%)、「耐震性に優れ、耐用年数が長い堅牢な庁舎」(9%)の順であった。

2-4 現庁舎の課題から

- ・耐震性に問題があり、防災・災害復興拠点として不十分である
- ・分散や狭隘化により、使い勝手が悪い。
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応が遅れている。
- ・設備の老朽化およびIT化への対応が遅れている。
- ・市民協働のための空間が確保出来ていない。



【まとめ(案)】

- 開かれた、市民に親しまれる庁舎
- ユニバーサルデザインに対応した庁舎
- 環境共生型の庁舎
- 経済性・耐久性を考慮した庁舎
- 市民サービス・事務効率の向上を目指す機能的な庁舎
- 安全・安心な暮らしを支える庁舎
- 市民生活の総合的支援を図る、誰もが利用しやすい庁舎
- 業務の可変性に柔軟に対応できる庁舎
- 効率的で情報化に対応できる庁舎

3. 新庁舎の位置について

3-1 市民アンケートから

- ・新庁舎の建設場所について、「現在地が良い」と回答した人が70%近くいた。
- ・その他、多い順に、「駅から近いこと」、「車・バイク利用での交通の便が良いこと」、「地理的に、市の中心に近いこと」などの回答があった。
- ・自由解答欄では、「庁舎は現在の場所にしてほしい」という意見が複数あった。

3-2 検討協議会委員の意見から

- ・現庁舎の位置は駅から近く、便利である。
- ・一方、高齢者にとっては駅からやや距離がある、という意見もあった。

3-3 市政世論調査から

- ・現在の市庁舎の立地について、「利用するのに便利である」または「どちらかといえば便利である」と回答した人を合わせると、76%を占めた。

3-4 府中市の現況

- ・現庁舎の場所以外に、候補地となる場所がない。



【まとめ(案)】

- 新庁舎の立地場所は、〇〇として検討を進める。
- 自転車や自動車で来庁する人が多いことから、駐輪場や駐車場の整備についても検討する必要がある。

4. 新庁舎が備えるべき機能および規模

4-1 市民アンケートから

- ・「理想に思う庁舎像」として、「最小限の事務所機能を備えた庁舎」という意見が約 35%あった。
- ・自由回答欄では、「市税・予算を有効に使ってほしい」、「シンプルな庁舎にしてほしい」、「新庁舎は必要ない」などの意見も目立った。
- ・その他、駐車場や子供の待機所の確保、食堂の充実、市民利用施設の併設、IT化の推進などの意見があった。
- ・現庁舎への来庁方法としては、自転車が一番多く、以下自動車、徒歩、電車という順であった。

4-2 検討協議会委員の意見から

- ・役所の業務が、将来どのように変わるかについても検討すべきである。

4-3 市政世論調査から

- ・市庁舎の課題として、「駐車場・駐輪場などが十分ではない」と回答した人が 28%いた。



【まとめ(案)】

○市庁舎の機能について

- ・21 世紀の社会と環境に求められる機能
⇒省エネ・省資源に必要な機能、IT化へ対応のための機能、災害時の対応に必要な機能、ユニバーサルデザインの実現に必要な機能 等・・
- ・便利で使いやすい庁舎の実現のための機能
⇒市民協働のための機能、市民に便利なワンストップサービス、開庁時間に柔軟に対応するための機能 等・・
- ・諸機能が柔軟に配置され、将来変化へ対応するための機能
⇒行政組織や職員数の変化に対応するための機能、合理的な維持管理をするための機能 等・・

○市庁舎の規模について

- ・シンプルで、かつ市庁舎として必要な機能を備えることが可能な規模として算定する。
⇒総務省基準、国交省基準、他市事例などから必要規模を算定。
- ・適切な駐車場・駐輪場の規模を検討する。

5. 実現方策

5-1 府中市の状況

- ・積立金は、現在約 22 億円。

5-2 市民アンケートから

- ・「市税、予算を有効に使うて欲しい」「シンプルな庁舎にして欲しい」という意見が目立った。

5-3 検討協議会委員の意見から

- ・建替え(新築)のみでなく、改築という方向でも検討を行うべきである。



【まとめ(案)】

○事業費の算定について

- ・事業費を〇〇円/㎡として算出する。

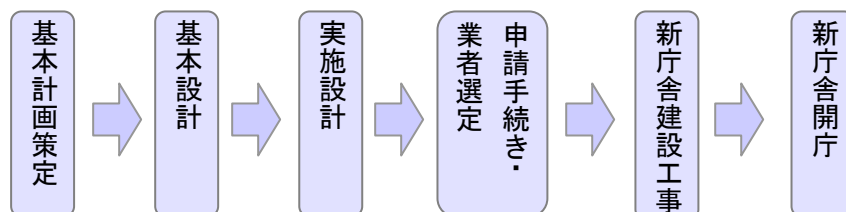
○事業手法について

新築・改築を含め、事業手法の検討を進める。

また、設計・施工に関する事業者選定に関しては、選定方針や選定過程において、専門家および市民の意向を反映できる公開性を持たせ、透明度の高い方式を採用する。

○事業スケジュールについて

[今後の新庁舎建設までの予定手順]



6. 今後の検討の進め方(案)

新庁舎建設計画の進行にあたっては、議会・行政の考え方を速やかにさまざまな方法で市民に伝え、理解を共有することが重要である。

また、敷地拡張の可能性も踏まえて、新庁舎の建設に必要な手続きを進める必要がある。そのため、計画の具現化にあたっては次のような基本姿勢で臨む。

- 市民・議会・行政が理解を共有できる検討体制の整備
- 広報や市ホームページを利用した情報発信や、その他さまざまな方法による市民意向の収集
- 新庁舎建設に向けて必要な手続きの整理